

未来 に向けて走り出す!

のどかなバス旅で
プチトリップ体験!

グリーンスローモビリティに乗ってみました!

1



出発! 野津原支所

野津原支所を午前9時に出発!
まずは道の駅のつはるに向かって、野津原の田園風景の中をゆっくりと走っていきます。



2



道の駅のつはる

田園風景を望む道路を走っていると、広大な大分川ダムが見えてきます。30分間の停車時間で、道の駅の売店で地元の新鮮な野菜や特産品の買い物も楽しめます。

3



府内大橋から大分川の河川敷へ

のんびりおだやかに進む車両に、ウォーキングやランニング中の皆さんが驚いていました。子どもたちに手を振ったり、自転車と並走したりと、普段味わえない非日常体験。鳥の声や川のせせらぎも楽しめます。

植田支所

4



JR 大分駅上野の森口

宗麟大橋付近で大分川河川敷から一般道に戻った後は、JR大分駅上野の森口へ向かいます。停留所は、JR大分駅上野の森口を出てすぐのロータリーにありますので、駅へのアクセスがよく、利用しやすくなっています。

5



大友氏館跡に到着!

午後0時10分に終点の大友氏館跡に到着。
6月に一般公開が始まった庭園や「南蛮 BVNGO 交流館」へのアクセスにも便利です。
帰りは大友氏館跡を午後1時50分に出発します。

可愛らしいフェイス。
愛着が湧きそう!
2人の乗務員が徹底した安全確認を行いながら走行します。

イーコムテン 車両 [eCOM-10]

特徴



ナチュラルな雰囲気の木シート。乗車人数は最大で22人(座席15人。立席7人。乗務員2席含む)。



後部にスロープを設置できるので、車いすの人も利用できます。



バスの天井には、自動運転用センサーカメラやGPSが搭載されています(自動運転時のみ使用します)。

軽自動車に使われるタイヤが10個付いていて小回りが利くので、狭い道も得意!

※今後eCOM-10を使った自動運転実験運行も計画しています。運行に当たっては、グリーンスローモビリティの実験運行を運休する期間がありますので、運行状況については公式LINEや電話で事前にご確認ください。

point 1 グリーンスローモビリティ



グリーンスローモビリティ 公式LINE



個人的で愛くるしい黄色と白色のバス。これ、なんだと思いますか?
市では新たな試みとして、低速電動バス eCOM-10 による移動サービス「グリーンスローモビリティ」の実験運行を行っています。1回のバッテリー充電で約60キロメートルを走る地球にも優しい電動モビリティ。この車両を使って、将来は自動運転の実験も行う予定です。特徴は、何と言っても時速20キロメートル未満の低速走行。低速で走るので安全性が高く、窓ガラスのない開放的な車両はまるでトロトロ列車のようです。

実験では、野津原支所、道の駅のつはる、植田支所、JR大分駅、大友氏館跡を結ぶコースを走りますが、野津原地域では、手を挙げれば自由に乗降可能なフリー区間も設け、生活の足としても活躍しそうです。乗車料金は無料で、乗車人数や現在地は、LINEのグリーンスローモビリティ公式アカウントを友だち追加することで確認できます。
せわしなく過ごす毎日の中で、地域の魅力を再発見できる片道約2時間のスローなバス旅。ぜひ体験してみてください。



INTERVIEW

自動運転の実用化に向けた研究の動向

近年の自動車業界の自動運転の実用化に向けた流れは、運転支援システムからの段階的高度化と、無人移動サービスの早期実現の2つに大別されます。特に自動車運送事業においては、ドライバーの不足が日本の社会的課題になっており、この解決に向けて無人移動サービスの早期実現が活発に研究されるようになってきています。大分市でも、バスの移動サービスを無人化させることにより、比較的単純な仕組みで実現する、信頼性の高い自動運転システム技術が目ざされ始めています。この技術的アプローチは、自動運転に親和性のある街づくりを合わせて実施することで、より持続性の高い移動サービスが実現できるとされています。

自動運転による課題解決とその可能性について

自動運転を実現するためには、人工知能などが柔軟な判断を行うことができる技術の導入が必要となります。しかし、信頼性の観点から実用には時間を要するといわれています。そこで、地域や路線を限定することにより、比較的単純な仕組みで実現する、信頼性の高い自動運転システム技術が目ざされ始めています。この技術的アプローチは、自動運転に親和性のある街づくりを合わせて実施することで、より持続性の高い移動サービスが実現できるとされています。



副センター長 小木津 武樹

群馬大学
次世代モビリティ
社会実装研究センター